

## リニア中間駅周辺の豊かな地域環境と融合した新たなワークスタイルの創出検討会（第3回）

### 議事要旨

日時：令和3年5月26日（水）10:00-12:00

場所：（WEB 開催）

#### 1. 議事

開会后、委員の変更に伴う規約変更の承認を経て、前回検討会で発言された委員の意見に対して事務局より回答及び、以下の議事に関する審議・報告を行う。

SMRの形成及び効果の広域的拡大の促進に関する取組について

（実証実験計画（案）の具体化について）

- 1) 実証実験計画（案）について
- 2) 実証実験アンケートについて
- 3) 実証実験の準備状況について

#### 2. 前回検討会での委員意見に対する事務局回答

【実証実験の参考となる取組について】

- 富岡町（福島県）にて実施されている「プロフェッショナル・イン・スクールプロジェクト」の紹介があった。内容はアーティスト、音楽家、大工等のプロフェッショナルが、小中学校に転校し、校内で仕事している様子を子どもたちが見て、学んでいくという取組。

大人のワーケーションという面もあるが、それを見ている子どもたちも一緒に成長し、さらに子どもたちと一緒にいる時間から大人の精神的な成長機会につながるという点が面白いと紹介されている。

また、藤野にもパイプオルガンの製作所があり、制作の様子を見てもらうことで、学ぶこともあるのではないかという意見もあった。

⇒ 藤野のパイプオルガンの制作の様子を見てもらう体験コンテンツも組み込めないか検討させていただくとともに、参加企業と調整が必要であるが、例えばワーク拠点でのワークの様子、議論の様子などを子どもに見てもらうなど、そのようなプログラムが組めれば面白いと思う。参加企業に提案してみたいと考えている。

- 小菅村（山梨県）の事例、古民家をリノベーションし、分散型ホテルとして村全体をホテルにする取組。その取り組みがワーケーションにもつながるため、藤野でも参考になるとの紹介があった。

⇒ 実証実験のとりまとめにおいて、このような参考となる他事例も併せて、とりまとめていきたいと考えている。

- 新庄市（山形県）の「のくらし」は、2階に大型モニターで県内他地域のコワーキング施設と接続しており、この施設間の連携が共創につながっているとの紹介があった。

⇒ マッチングイベントにてワーカーと体験コンテンツ提供者の共創につながるような、この

ような施設間連携の手法の導入を検討したいと考えている。

#### 【実証実験のプログラムについて】

- 藤野の場合、一般的な観光資源が無い場合、ソフト面の充実に課題があるのではないかと意見があった。

⇒ 藤野では人を軸にした体験コンテンツが充実しているため、事務局としても、同様に考えており、そのコンテンツとの連携及び、専用サイトの体験コンテンツの紹介で、人物に焦点をあて、都心のワーカーに訴求したいと考えている。

- 地域の課題にパートナーとして対策と一緒に考えてくれる企業等の参加を考えたらいのではとの意見があった。例として、藤野は交通に関して課題があり、交通政策の取組である MaaS が IT を活用した取組であり、実証実験にハッカソンの、集中的に、ソフトウェアの共同開発などを体験プログラムに組み込み、参加する企業（IT系）が費用を負担してでも来たいという実証実験になれば、2回目以降の来訪につながるのではないかと意見があった。

また地域課題の対策を考えてくれる企業を参加ターゲットとしたら良いのではないかと同様の意見が別途あった。

⇒ 地域課題の解決につながるような実証実験プログラムを組み込みたいと考えており、参加企業と調整してみたいと考えている。

また、御意見の視点、すなわち、地域課題の対策を考えてくれる企業を参加ターゲットとするという視点で、新たに参加企業の選定を考えていきたい。

なお、地域課題の解決という観点ではないが、専用サイトで、企業の業務にとって有効なマッチングに資すると考えられる実証実験エリアの魅力もアピールし、実際に企業に参加していただき、地域資源の付加価値等を生むことが出来れば、来訪につながると思う。

- 実証実験を夏に実施予定であるため、里山体験ツアーを体験プログラムに盛り込むと良いのではないかと意見があった。

⇒ 体験コンテンツに盛り込むことを考えている。

- 実証実験の参加企業について、業務の成果に対して評価されているクリエイティブや IT 系の企業の方が親和性は高いが、今後、テレワークを活用し、業務の成果で評価する体制に変えていきたいという大丸有（大手町・丸の内・有楽町）の企業も 1、2社参加できると面白いとの意見があった。

⇒ 現在、大丸有の建設業である企業に営業をかけているため、参加いただければ、その結果として、テレワーク、ワーケーションの今後の意向が聞けて面白いと考えている。

#### 【実証実験の運営等について】

- 実証実験の参加者に費用負担があると、費用負担した分、訪問先の価値を見つけようとする心理が働くが、費用を全額補填すると、そのような心理が働かないため、2度目の来訪に結びつかないというリスクが想定されるとの意見があった。

また、交通費は補填しないが、体験プログラムの費用は補填する等、制度設計を検討した方

がよいということであった。

⇒ 御意見のとおりと考えているが、制度設計に関して、実験プログラムは、テーマ区分ごとに内容を、それぞれカスタマイズし、さまざまな体験コンテンツを盛り込んでいくことになるので、プログラムでの補填整理は難しいと考える。そのため本実証実験では、交通費での補填整理としている。

- 藤野のマイナスポイントに「虫」が挙げられ、特にヤマヒルが課題との意見があった。  
⇒ 専用サイトなどで予防策や応急処置の案内を周知することで対応したいと考えている。
- 実証実験に E-BIKE を導入することに関して、道幅が狭いなど藤野の道路事情に適しておらず、数年前に、藤野で交通事故も発生したこともあり、導入に対する懸念の意見があった。  
⇒ E-BIKE に関しては、リスクについては御意見のとおりと認識している。  
しかし、一方、時間にとらわれず、フレキシブルに動けるものとして有効と考えている。そのため、利用に際しては、交通の危険性について、きちんと周知し、さらに参加者に承知させ、このような措置を講じた上での導入とさせていただきたいと考えている。
- 広報について YouTube の活用をしてはとの意見があった。  
⇒ キックオフイベントの広報で YouTube の活用を考えている。
- 実証実験後も企業や個人が藤野と関わりをもってもらうためには、空き屋、統廃合された公共施設等の物件情報等、引き続き様々な情報を提供するため、その仕組みも含めて検討できればとの意見があった。  
⇒ 実証実験のとりまとめにおいて、実証実験エリアと関わりを持ってもらう施策の1つとして整理を検討する。

### 3. 意見交換における主な内容

#### 【実証実験プログラムについて】

- 実証実験計画案に記載されているプログラム例に、里山体験ツアーの記載があるが、安全と責任の問題で、子どもだけの里山体験ツアーは実施しておらず、大人の引率が必要である。  
また、10:00~15:30 で実施しているので、別の時間で実施する場合、受入側の協力の上、別途カスタマイズする必要がある。プログラムについては、受け入れ側である地域の協力が必要である。  
⇒ 実証実験プログラムについては、例として記載しているもので、宿泊施設及び体験コンテンツ提供者と連携をとりながら、参加企業、ワーカーとカスタマイズしプログラムの内容を確定していくことを考えている（事務局）。
- タイムスケジュールを見た印象として、ワークタイムが割と短いように感じる。
- 現在のプログラムでは、受入側のサービスが手厚いため、参加者がお客様になってしまう。そのため、個人が自由に使える時間を設定し、地元の人に偶然出会ってもらい、暮らしを見てもらおう仕掛けがあると良い。また、地元の組織よりも個人に出会う方が響く。こういう体験ができませんではなく、こういう人に会えます。自分の生活とその人の暮らしを重ね合わせ

て考える時間をつくります。それが仕事に還元できます。というように、藤野で仕事をする意味を体感するためにも人に焦点をあわせて実施し、継続的な関係人口の創出に結びつけた方が良い。

⇒ 委員の意見については、実証実験プログラムの構成において、参考とさせていただく（事務局）。

○ プログラムについて、リニア中間駅ができ、地域発展ということでプログラムを充実させていくという姿勢は大事であるが、ある程度地域の「素」の部分を見せて、地域へかかわりたいと思う企業や個人を掘り起こすと良いのではないかという、委員の意見（地元の人との出会い）に同意する。

⇒ 地元と連携し、「素」の部分を見せられればと考えている（事務局）。

○ プログラムについて、観光的な体験が目立つが、今後の働き方を考える機会、すなわち近くなるため、ここで働くことを考えても良いよねとか、今後このような働き方を考えても良いよねといったことを考える機会を提供できると、より魅力的になると思う。また、そういったことを考えると良い層をターゲットとしたらと思う。

⇒ 意見にあった働き方について、参加されるワーカーにどのように示すかを考えるとともに、実際に参加してもらい、このような働き方があるなど考えていただければ、新たな働き方の実現につながると考える（事務局）。

○ 前回ハッカソンなどを意見したが、参加される方々として情報通信業が挙げられており、親和性が高いと思われ、自分自身の仕事に結びつけるということを実施していただくと、もっとクリエイティビティが高まるということを感じてもらえると思うので、企画段階からの参画してもらうことができれば良いのではないか。今後の本格実施の際に企画側として参画いただくことを念頭に、実証実験に参加していただくことも考えられるのではないか。

⇒ 企画側に参加企業が入ってくれば、成果として良いものが生まれると思うため、参加される企業と調整していきたい（事務局）。

○ 「ジョブケーション（ワーケーションと副業を掛け合わせた新しい働き方）」という提案もあるのではないか。（参考）<https://sotokoto-online.jp/5320>

○ コーディネーターもいろいろなつながりや知見をお持ちの方であるため、プログラムについて、単発で終わらないように、関係人口の創出など継続的なプログラムを連携して構築していければと思う。

⇒ 市とは、連携をとって、そのようなプログラムを構築していければと思う（事務局）。

○ 提案として、我々の団体が関わっているなぐら湖畔の森、森ラボから徒歩10分のところにあり、椅子・テーブルセットを4セット設置する予定である。Wi-fiは別途調整する必要があるが、働く場所として、さらにバーベキューもできるので、活用を検討してみたいかがか。

⇒ 検討、承知した（事務局）。

- 取引先に、個別に実証実験の参加について声をかけてもおり、その中で、プログラムで、ワークとバケーションどちらに重きを置くかは、企業によって差が出るのではないかという感触である。

#### 【移動手段について】

- E-BIKE の導入を前提に進んでいるが、非常に不安に感じている。実証実験中に交通事故が起きたら実証実験自体が立ち行かなくなるのではないか。自転車利用者は藤野にいない。
- 地域おこし協力隊としてやってきたスタッフに移動のための電動自転車を貸し出したところ、初日にカーブでトラックを避けて自傷事故を起こし骨折。自宅に1ヶ月帰ることになった事例もあるので導入の安全性には不安がある。
- E-BIKE の導入について、2車線でも、すれ違うのがやっとの県道の箇所が多々ある状況で、道に慣れていないと事故の危険を感じる。
  - ⇒ E-BIKE については、ご指摘のとおり危険性があることは事務局でも認識している。そこは、道路事情を周知させていただくとともに、参加されるワーカーにおいても利用について承知してもらった上で、導入させていただきたいと考えている（事務局）。
- E-BIKE の代替案として相模原市緑区が公用車として所有している超小型モビリティ（普通免許で運転できる2人乗りの小型電気自動車）の活用が良いのではないか。
  - コロナ禍の状況でなかなか進んでいないが、導入を検討している。現在、タクシー会社が運営の担い手として、藤野観光協会は利用促進として協力し、導入検討を行っているところである。超小型モビリティであれば、E-BIKE の課題である危険性は解消されるため、導入を検討してはどうか。
- 超小型モビリティを緑区の公用車として2台、実験的に導入している。実証実験で活用する際の課題として、関東運輸局から（保安基準緩和の変更）認定を受けて、実証実験でも使えるようにする必要がある点、不特定多数が利用する場合、現在の自動車保険では対応できない点、乗車前の安全運転講習を実施する体制、地域の同意等の課題挙げられる。これらの課題がクリアになれば、実証実験における活用も考えられる。
- 宿泊施設でバス等をもって、送迎してもらうなど地元で協力してもらえる団体を1者でも増やすことが地域密着の第一歩と考えるので検討いただきたい。
  - ⇒ 地元との連携として、相模原市の協力の下、6月から3地区のまちづくり会議に参加させていただき、実証実験について地元のご協力を依頼して、以後、具体的に連携の上、送迎など活用させていただけるとありがたいと考える（事務局）。
- 駅の関係で、八王子市の高尾駅でレンタカーを借りる場合、インセンティブ（補填）の対象になるか。
  - ⇒ 八王子駅は特急停車駅であるため、中央線特急をリニアと見立てて考えた場合に、その関係性が強いと考えてインセンティブ（補填）を設定している。高尾駅については、企業等の要望があった場合、それを踏まえて、対象とするか、検討させていただく（事務局）。

- 特急利用しない場合、高尾駅は帰路で始発駅となり着席できるため、インセンティブ（補填）について検討頂きたい。

【実証実験の進め方について】

- イベントの例としてハッカソンが挙げられ、それがITであるため、具体化してくる段階で協力できる部分もあると思うので適宜お声がけいただきたい。
- 広報について、YouTubeも競争が激しいため、作りこみを工夫しないと目立たない。協力できる部分もあると思うので適宜お声がけいただきたい。
  - ⇒ イベントなどこれから具体的に検討を進める中で、課題が発生することも想定されるため、その際にご協力をお願いしたい（事務局）。
- アンケートについて、期待していて、そのとおり良かったとか、期待に反して、悪かったとかもあるが、期待していなかったが良かったという点は、これでは把握できないので、設問に設けていただきたい。
  - ⇒ アンケートに加えて、さらにヒアリングを行い、抽出したいと考える（事務局）。
- 実証実験の参加意向について、都心の企業に問い合わせしていて、現在4社から積極的な回答があったということだが、どのような内容の回答か。
  - ⇒ 詳しい意向は今後把握する予定であるが、その中で、子ども連れでの参加を希望している企業、また他地域でワーケーションを実施している企業であることから、コーディネーター機能について関心を寄せている企業がある（事務局）。
- 取引先に、個別に実証実験の参加について声をかけており、大企業であると会社全体としての参加は、ハードルが高いが、ワーカー単位といった小規模であれば参加してみたいとの意見があった。
  - また、IT系では在宅勤務が進んでいて職員同士のコミュニケーションがとれていない状況で、夏にこの場所で会えるのなら参加してみたいなど、小規模又は小回りのきく企業であれば、コロナ禍の状況はあるが、参加の意向があるという感触を得ている。
- 大丸有の企業の参加意向はどのような状況か。紹介可能であるため、適宜お声がけいただきたい。
  - ⇒ 大丸有の企業においても、参加について関心を寄せられている。紹介の件については、事務局としては心強い意見と受け止めており、必要であれば連携させていただきたい（事務局）。
- 森ラボのプロモーション、都内への告知としてSNSを連動させるとか、検討はされているか。
  - ⇒ 森ラボのプロモーションについては、市と連携していく（事務局）。
- 森ラボは6月に改修工事完了、7月オープンで進んでおり、実証実験との連携の見通しが立っている。プロモーションについてもホームページやSNSでの発信を予定している。国交省とも可能であれば連携したい。

- 今年度の議論で令和4年度の検討にも触れるので、マクロな SMR の話題とミクロな中間駅周辺の話題を結びつけなければいけないと思うが、他の地域、他の地方整備局にも展開できるように意識して、中間駅周辺での推進体制として、地元まちづくり会議、市の役割など体制の作り方、役割分担を考えて整理していただきたい。  
⇒ 体制づくりについて、事務局として整理していく（事務局）。
- 実証実験は国交省の事業であるため、最終的には国交省で内容を決めていくが、各委員から、実証実験について協力の申し出をいただいているので、密に連携して進めていただきたい。E-BIKEについては、やめるか、実施する場合には、かなり手厚い、強い対策が必要かと認識している。
- 働く場所に関しては、魅力ある働き方として、ジョブケーションについて提案していただいていることも踏まえて、もっと魅力を打ち出していきたい。  
また、地元地域との協力体制についても、しっかりと地元と連携しながら進めていきたい。  
バケーションについては必要により人に焦点をあてて、進めていきたい。  
E-BIKEについては、モデル駅から目的地に移動するのに公共交通だけで大丈夫かと懸念し、今回提案させていただいた。委員の方々のご指摘を念頭に、宿泊施設のバスなど地元と連携可能な範囲で、調整、ご協力を得られたらと思う。  
ワーケーションの発信方法についても、効果的に発信できるよう委員の皆様にも相談させていただきながら進めていきたい。

以 上